

高次脳機能障害学

[講義] 第2学年 後期 選択 1単位

《担当者名》○桜庭 聡 s-saku@hoku-iryo-u.ac.jp 若松千裕 齋藤隆司

【概要】

さまざまな脳疾患に起因する失語・失行・失認、記憶障害、認知症など、臨床場面で遭遇する主な高次脳機能障害に関して、原因と病態、症状と分類、評価法、対応の仕方、リハビリテーションについて学ぶ。

【学修目標】

一般目標

中枢神経系理学療法学をより深めるために、高次脳機能障害について理解し、その概略を説明できる。

行動目標

1. 高次脳機能の概念と評価の基本を理解し、障害評価の学習につなげることができる。
2. 高次脳機能障害へのリハビリテーションを理解し、臨床実習に生かすことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	高次脳機能の概念・原理	高次脳機能の基本的原理（機能局在、二重乖離など）について学ぶ。	桜庭聡
2	視覚の高次脳機能障害	視覚・空間認知の仕組みとその障害（視覚失認など）について学ぶ。	桜庭聡
3	失認・失行	視覚性失認以外の失認（聴覚失認、病態失認など）と関連症状（地誌的見当識障害）などについて学ぶ。行為の障害(失行)について学ぶ。	若松千裕
4	記憶障害	記憶の分類、記憶障害の原因疾患、評価、症状、リハビリテーションについて学ぶ。	齋藤隆司
5	前頭葉機能障害	前頭葉機能障害の病態と評価法、症状、リハビリテーションについて学ぶ。	齋藤隆司
6	認知症	認知症の原因疾患、症状、タイプ分類、リハビリテーションについて学ぶ。	桜庭聡
7	失語症1	失語症の概要、原因疾患、症状、タイプ分類および責任病巣を学ぶ。	若松千裕
8	失語症2	失語症の評価・診断法、失語症者との適切な関わり方を学ぶ。	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末試験（筆記試験）100%とする。

【教科書】

石合純夫 著 「高次脳機能障害学 第3版」 医歯薬出版株式会社 2023年

【備考】

本授業の内容は理学療法士国家試験の出題範囲である。

【学修の準備】

シラバスに書かれた講義進行に応じて指定した教科書を事前に読んでおくこと。（80分）
講義で配布した資料と教科書で講義内容を復習し、知識を確実なものにすること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2. 理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

桜庭聡（作業療法士、臨床神経心理士）、若松千裕（言語聴覚士）、齋藤隆司（作業療法士）

(2026年度・リハビリテーション科学部)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験及び高次脳機能障害に関する研究経験を活かし、高次脳機能障害の病態、リハビリテーションおよび高次脳機能障害にかかわる専門職種の多職種連携について講義する。